

成果報告 1 海洋を学ぶ学習

定時制の学校設定科目「海洋」の改善

学校名 活動名	八丈高等学校 定時制 学校設定科目「海洋、地球、宇宙」の開発 定時制主任教諭 磯野 巖
------------	---

年度の単元開発の取り組みにおいて、通常授業時間帯（17時半～21時）の前の全日制生徒も受講できる15時半から17時の時間帯に実施する計画をたて受講生も募集したものの、受講を希望する生徒がでなかったため開講保留となった。

そのため今年度は授業時間帯の選択科目として開講することを前提に海洋だけでなく地球や宇宙の視点も取り込み八丈の自然や文化とのかかわりも考える学校設定科目「海洋・地球・宇宙」をつくり受講募集をおこなった。結果、2名の4年生が受講を希望したので2018年から週2時間2単位の授業として開講が決定した。

具体的な内容及びシラバスは以下の通りである。

1 設置教科・科目の名称 「海洋・地球・宇宙」

2 設置の理由

- (1) 4年選択教科「地学基礎」にかわり、本科目を設置することで、地域環境を活用し、各科目を横断的に扱った特色ある理科教育を行いたい。八丈島は周囲を太平洋に囲まれ、気候・風土・文化ともに海とたいへん関わりの深い地域である。海との関係なくして八丈島の生活は語ることができず、本校の生徒が海を通して学習することは極めて意義のあることと考える。また伊豆・小笠原海溝に沿って形成された火山島であり、地球の活動を直接感じることができる。
- (2) 本校には天体ドームを配備した天体望遠鏡を設置している。本州より280km離れた海上にあるため、晴天であれば天体観測に絶好の場所となる。これらの環境や設備を活用し、夜間定時制ならではの特色ある人材の育成を行う。

3 設置教科・科目の目標

- (1) 地球内の活動メカニズムであるプレートテクトニクス、地表で起こる地質活動、形成された地形などについて、それらの関連性を八丈島の形成や地理的關係に絡めながら学ぶことで理解を深めていく。
- (2) 海や大地によって、地域独特の気候が生まれ、そこからさまざまな文化が生まれていくことについても学んでいく。
- (3) 宇宙について学習することで、地球が宇宙全体から見ても稀有な星であり、数々の偶然が重なって生命体が誕生したことについても理解していく。
- (4) 天体観測を通して、宇宙についての学習内容を身近に体感し、よりいっそうの興味と理解を深めていく。

4 設置教科・科目の学習内容

- (1) 地球誕生から海洋の誕生までの歴史及び、生命の誕生から現在の海洋生態系までの歴史について学習する。
- (2) プレートテクトニクス理論を基に海底・陸上地形の形成、地震、火山活動のしくみについて学習する。
- (3) 海洋や大気で起こる様々な流動現象や気候・気象との関わりについて学習する。
- (4) 工芸や食を中心とした海洋文化について学習する。
- (5) 天体観測を通して天体の動きや太陽系の天体について学習する。
- (6) (1)～(5) 全ての項目において、八丈島との関連について取り上げ、地域の理解を深める。
- (8) (2)～(5) については、実験や実習を取り入れ、体験的な学習を行う。

(9) 定期考査は行わない。出席状況、学習意欲、授業態度、授業ごとのワークシートや単元終了ごとに行う簡単なレポートによって総合的に評価を行う。

- 5 設置教科・科目の履修学年及び履修単位数 4 学年 2 単位
- 6 担当を予定している教員の教科 理科
- 7 使用教科書等 なし
- 8 年間指導計画

年間指導計画 授業の1 単位時間：（ 45 ） 分間

学期	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	海の誕生と海洋地形	<ul style="list-style-type: none"> ・地球誕生から海と生命の誕生まで ・海洋の地形と名称 		4
1	プレートテクトニクスと地球の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・プレートテクトニクスのしくみ ・海底、陸上の地形の関係 ・地震、津波の発生メカニズム及び津波と風浪の違い 【実習】津波・風浪の実験 ・火山活動のメカニズム ・八丈島の誕生と地形 		1 0
1	大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> ・大気の構造 ・大気循環システム ・雲の発生と降雨 【実習】雲の発生 ・大気とエネルギー循環と気候 ・台風の発生とその動き 		1 2
2		<ul style="list-style-type: none"> ・海洋の構造と海水の運動 ・海洋大循環（表層・深層について） 【実習】海水の沈み込み再現 ・大気、海洋と気候変動の関係 ・大気、海洋と物質の循環の関係 ・大気、海洋の循環から見た八丈島の気象と気候の関係 	出席状況 活動状況 ワークシート レポート	1 2
2	海洋環境と海洋生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋生態系のシステム ・海水の温度や循環と栄養塩 ・八丈島の地形と海洋生態系 		1 0
2	海洋文化	<ul style="list-style-type: none"> ・海産生物の工芸品、八丈島での利用 【実習】真珠貝の作成 ・水産生物の食文化 ・世界、日本、八丈島の水産発酵食品 【実習】世界と日本の水産発酵食品の比較 		1 2
3	太陽系と地球	<ul style="list-style-type: none"> みかけの天体の動きと地球の運動 太陽系の天体（太陽・惑星・衛星・その他） 【実習】天体観測 <ul style="list-style-type: none"> ・早見盤、双眼鏡・望遠鏡の使い方 ・月、太陽、惑星の観測 ※日没時間の関係で太陽観測のみ1 学期に実施 ・星団、星雲の観測 		1 0
配 当 時 間 合 計				7 0

全日制 学校設定科目「海洋文化」

学校名 活動名	八丈高等学校 全日制 学校設定科目「海洋文化」の改善 ウミガメに関する調査 副校長・大三 宗康
------------	---

学校設定科目「海洋文化」では、八丈島と海とのかかわりを学習しながら、最終的にダイビングのオープンウォーターのライセンス取得を大きな目標として授業がおこなわれてきた。

今年度の改善としてウミガメに関する調査をおこなった。

ウミガメに関する調査

世界には 8 種のウミガメが住んでいます。そのうちアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメ、クロウミガメの 6 種類が日本近海に住んでいます。

ウミガメは陸に住んでいたカメが海へ進出したものです。海中で早く泳ぐために、手はヒレのようになり、甲羅は水の抵抗を受け難い流線形になりました。甲らの骨は隙間が多くなり軽くなりました。この進化のためにウミガメはとても早く泳げます。

八丈島には、多くのウミガメが生息している。八丈島近海には、アオウミガメが多くみられる。また、アカウミガメは、八丈島底土海水浴場砂地に産卵をしに近來ている事が確認されていることからウミガメの調査を行うことにした。

調査 1

この 2 年間、底土海水浴場・汐間海岸・横間海岸・八重根海岸等でほぼ毎回ウミガメに水中で見ることが出来た。数多くのウミガメが生息していると思われた。そこで、八丈島に多く生息するアオウミガメを上部から撮り個体の違い・傷・特徴を写真に収める調査をすることにした。

写真は、水中の写真撮影が必要でありカメの生態等が分かっている八丈島のプロのダイバーによる撮影が必要であった。写真の撮れるショップを探しから始まる。本校市民講師でダイビングライセンス取得の授業を行っている先生に願いをしてみたところ八丈島のウミガメの生態、生息地域など詳しい話を聞くことができた。

場所、個体数、大きさ、特徴、性別をデータとして依頼した。

性別については、80～90cm になったときに大人として判定できるようです。オスは、尻尾が長く伸びてくる。今回、性別が判定できたのは、1 個体のみであった。

調査 2

写真からみられる個体差と病気やけがの様子

個体A・2017年12月10日・場所マズマド・70cm・性別不明・右前方白い跡がのが特徴



個体B・2017年12月10日・場所ナズマド・50cm・性別不明・中央後方白い跡



個体C・2017年12月10日・場所ナズマド・50cm・性別不明・右中央後方白い跡



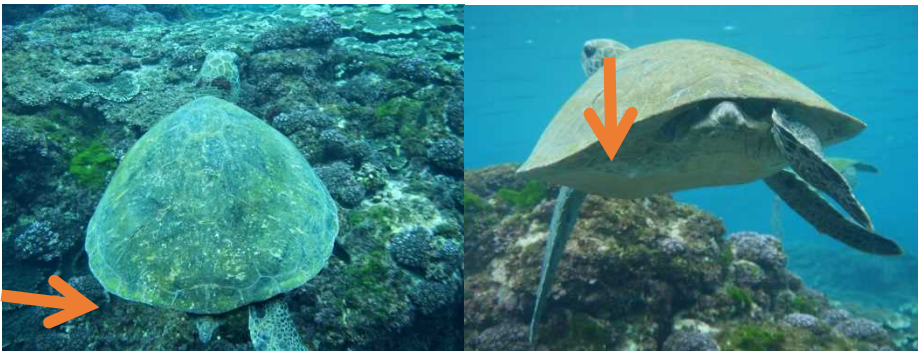
個体D・2017年12月3日・場所底土・120cm・性別メス・中央前方、後方傷あり

サメなどによる大型の天敵によりかじられてしまったため甲羅に欠損・ひびが入っている。



個体E・2017年12月3日場所底土・40cm・左後方足なし

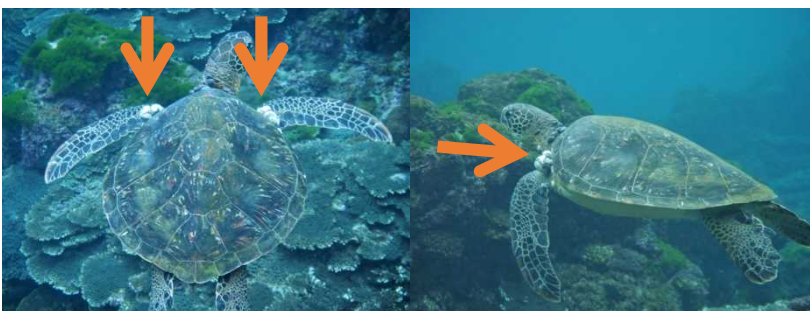
サメなどによる大型の天敵によりかじられてしまったために欠損している。



個体F・2017年12月3日場所底土・50cm・甲羅中央に多くのコケが付着



個体G・2017年12月3日場所底土・40cm・左前脚付根瘤あり



個体H・2017年12月10日場所底土・50cm・左前脚付根瘤あり

この個体は、個体Gと同じものと考えられる。

菌により腫瘍のようなものがみられる。首などの柔らかいところに出ていることが多い



個体I・2017年12月8日場所八重根・50cm・甲羅全体コケあり



個体J・2017年12月8日場所八重根・70cm・中央後方白い跡



調査結果から分かった事。

- ① 個体によって、甲羅で識別ができるかと思っただが方法は付着物や手足の瘤などで判別ができることが分かった。
- ② 八丈島のアオウミガメは、定住しているカメは少なく甲羅にコケが多く付着して八丈島にきてやせ細っているが海藻などを食べて太りまたどこかへ行ってしまいうカメが多いので性別の識別ができる大きさの個体が少ないと考えられる。沖縄・慶良間諸島・トカシキビーチでは、湾内に住み着いているアオウミガメがいる。石垣島、宮古島、沖縄本津には定住している個体もいる。
- ③ 足のないカメは、サメなどによる捕食によるものと考えられる。
- ④ 首・足の付け根などの周りに白い斑点は、菌によるものと教えられた。なぜかは解明されていない。
- ⑤ 性別については、80～90cmになったときに大人として判定できるようです。オスは、尻尾が長く伸びてくる。今回、性別が判定できたのは、1個体のみであった。
- ⑥ 八丈島近海にいるウミガメは、小笠原・沖縄に行き産卵をするようである。
- ⑦ アカウミガメが、八丈島底土海岸で産卵を決まったカメがしている。
- ⑧ 小さい個体のほうが俊敏に動き音などに敏感に反応する。
- ⑨ 大きい個体は、のんびりちょっとしたことでは動じない、反応は、ゆっくりしている。
- ⑩ 水中カメラでの撮影は、非常に難しく岩などにつかまっているカメ(静止している)は別として、泳いでいるカメを撮影する際には水中を縦横無尽に泳ぐので撮影者は水深等をチェックしながら潜水する必要がある。潜水病等の危険が伴うため。
- ⑪ 撮影のためにカメラを借りて、撮影を心みたがピント合わせ(焦点)が難しかった。それ以上に水深による色

抜け（深場10m以上の場所で本来の色を出そうとするとフラッシュ撮影が必要になるため）フラッシュによりカメが驚いてしまうことになる。

- ⑫ カメは、行動範囲が分からない。今日と同じ場所で見れることが少ない。他のポイントで、同じカメに出会う確率も少ない。（今回は他のポイントでは0%、同じポイントで1回のみ(定住の可能性あり)
- ⑬ 主食は、海藻で岸壁などに生えている海藻などを捕食している姿もよく見られる。

今回の調査は、6月ごろから取り組み情報収集にかなり時間がかかった。カメの情報は、未開の部分が多く苦労したが、くじらの講演の中にヒントがあった。クジラは、尾ひれで個体識別をしていると話があり、そのヒントをもとに甲羅の特徴を取り出すことが出来た。

以上の調査をもとに、「海洋文化」の授業に成果を生かしつつ今後も継続していければと思うところである。

成果報告2 グローバル視点での海洋教育

学校名	八丈高等学校
活動名	ハワイ大学カピオラニカレッジとの高大連携 校長 千葉勝吾

2016年11月に本校からハワイ大学カピオラニカレッジへ教員1名を派遣し高大連携協定締結に向けての協議を開始しその結果、2017年10月4日（水）にハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジのパゴット学長にご来島いただき八丈高校との高大連携協定調印式をおこなった。

調印式は本校の視聴覚ホールにおいて、生徒全員が参加し八丈町町長の立ち合い人をお願いして開催された。カピオラニカレッジと日本の高校の連携としては5校目ということでした。



調印式の横断幕



調印の風景



生徒たちの様子



記念撮影

カピオラニカレッジには過去3年間に7名の生徒が短期研修で訪問しており、その活動を継続するような交流活動を充実させるとともに、交換留学や海洋文化の共同研究などについても将来的に取り組むことを盛り込んだ協定内容となった。

調印式の後、ハワイについてのワークショップが開催されました。

ハワイ文化研究の第一人者から、ハワイ文化のことや民俗学の知識について楽しく学ぶことができ、愛情や心のこもった素晴らしい時間で多くの生徒が参加しました。



これまでは1年間に2名程度の生徒がハワイへの短期研修に参加して、全校集会で参加生徒からの報告をきくだけであったが、実際にハワイ大学の先生方によるワークショップに参加することで、生徒全員の意識としてハワイが身近になった。以上、調印式と講演の様子でした。

成果報告 ハワイ調査報告 (日本との時差は-19時間)

概要

10月のハワイ大学カピオラニカレッジ学長が来島しておこなわれた高大連携協定の答礼訪問をおこなうとともに、カヌー文化の継承に力をいれている同じハワイ大学のカウアイカレッジを訪問し海洋文化教育について視察するとともに

学校名	八丈高等学校
活動名	ハワイにおける高大連携、姉妹校との連携による海洋教育 校長 千葉勝吾

留学プログラムの共同開発をおこなった。

また、短期留学生がくることになったハワイ島のナーバヒー公立チャータースクールを訪問し、視察をおこなった。

内容

1月16日 羽田空港より用務開始

22:30PM (日本時間) 羽田空港発 ANA NHO186

10:05AM ホノルル空港 (オアフ島) 着

空港にてハワイ大学カピオラニカレッジ交流事業コーディネーター岡田氏と、
旅程について打合せ

1:30PM ホノルル発 HA162

2:25PM ハワイ島ヒロ着

○ハワイ大学 火山観測センター見学

ハワイ火山国立公園ハレマウマウ火口を見学するとともに、ビジターセンターにて火山と文化(ペレ信仰)について解説を受け、日本ジオパークである伊豆大島の御神火信仰や八丈島との差異についてディスカッションをおこなう。

○ハワイ大学 星と海洋ミュージアム見学

担当者より航海型カヌーのスターナビゲーションについて解説を受けるとともにホクレア号の実証航海について展示を見学。南山大学後藤明氏の「海から見た日本人-海人」著作の八丈島について意見交換し伊豆諸島地域のスターナビゲーションについて検討した。

1月17日

10:00AM ナーバヒーチャータースクール訪問

○学校概要

2002年開校の公立チャータースクール ハワイアンスタディを重視した教育幼稚園から高校までの過程を設置、校長は1名で統括

全教科をハワイ語で授業し、校内では会話もハワイ語、第2外国語は日本語必修ハワイアンでなくても希望すれば入学可能

○カマナ校長、ピラ教授(ハワイ大学ヒロ校)との面談

ピラ教授はハワイ大学でハワイアンスタディを担当しており、ナーバヒーチャータースクールの運営にも



深くかかわっている。ハワイ島のナーバヒー校と八丈島の八丈高校が交流することには大きな意義があると学生に話していた。今回、八丈から訪問したことに感謝すること。

カマナ校長からは、開校以来15年間、ナーバヒーから海外へ生徒を送り出すのが夢であったのが、今回、日本の八丈島へカラーマナマナが留学できることになったことはうれしい。本校と八丈高校の交流がこれより長く続くことを希望すること。

こちらからは、東京都教育委員会はオリンピックパラリンピック事業の一環として海外との姉妹校事業を進めており、八丈高校としてはナーバヒー校との姉妹校に向けての交流を深めていきたいと伝えた。

○留学生受け入れについて 親子面接の実施

カラーマナマナ 16歳 母はナーバヒー校教師 父はハワイ大学教員。初対面できちんと日本語であいさつできたが日常会話がおこなえるほどではなく、来日までに勉強して上達したいとのこと。プロフィール、成績表、健康診断表などの書類を受け取り、希望クラスとして2年家政科。アレルギーなど留学に際して配慮すべき事項はとくになし。趣味はサッカー。

来日時期については高校的には4月からで可能なのだが、ハワイ大学の履修をすでに始めており、その最終試験が4月半なので学期当初からの来島はできない可能性がある

○姉妹校について

ナーバヒー校としては、カラーの留学を機に交換留学なども視野にいれているとのこと。課題としてはナーバヒー校ではすべての授業がハワイ語でおこなわれるので英語での理解や学習が困難であるということで、長期の留学などは難しいかもしれないので、月単位であれば夏季休業期間中の滞在が適当と思われる。

1:00PM 溶岩被災地域見学

ハワイ島の溶岩粘度は低いので継続的に噴火が生じており、海岸部まで溶岩が達して人家に被害が及んでいる。伊豆諸島では三宅島で同様な被害が生じている。見学したハワイ島の西部地域の海岸では、家屋の再建や跡地利用を島をあげておこなっているもの本土やポリネシア地域からのヒッピーの流入も盛んで職のない人々も少なくない。なかには定職をもっている人も家賃が高いためホームレス生活をおこなっている人もおり、リカレント教育に必要性も高い。実際にそれらの人々を支援する各種プログラムも展開されている。

4:00PM ヒロ空港発 HA291

4:55PM ホノルル空港着

6:00PM ホテル着



7:30 PM HIKI 代表 鶴見剛氏、カピオラニカレッジ岡田氏と懇談

鶴見氏は福武書店を退社後、渡米し会社勤務を経験され、民間の教育コーディネーターとして独立。現在はおもに日本向けに学生受け入れプログラムを提供したり、岡田氏に協力してハワイ大学の受け入れを支援したりする業務をおこなっている。

懇談では、三者でハワイでのどのようなプログラムが効果的であるかと運営上の課題について情報交換をおこなった。

1月18日

10:00 AM ハワイ大学付属ワイキキ水族館見学

ハワイ大学の研究施設の一般公開用として水族館を運営。ボランティアなどを広く募って市民を巻き込んで活動をおこなっている。

現在、日本でよく見られるような巨大水槽などはないが、サンゴ礁の魚とテーマ別の展示をおこなうとともにふれあいコーナーにボランティアが常駐して解説などをおこなっていた。

日本国内でみれば水族館として最も古い歴史のある富山県魚津市の魚津水族館が類似した展示や活動をおこなっており、八丈島でも水産試験場を利用した魚の展示などをおこなえる可能性があると思った。

12:00 AM カピオラニカレッジ訪問

○日本人留学生との懇談

本校の生徒が文科省トビタテジャパン事業で参加したチェンジアカデミープログラムの同期生であった日本人留学生とランチミーティングをおこない、学習や暮らしぶりについてヒヤリングをおこない、チューターによるサポーターの充実などの支援策について状況を把握した。

チューターは学生のほか教員のボランティアもおり、顔写真つきで教えられる内容を明記した掲示板を作成していた。

学生は思い思いの席で学習し、飲み物や飲食も可能であり、給湯施設、電子レンジなども用意されていた。

○学長との懇談

10月に来島していただいた答礼訪問をおこない、額入りの黄八丈ひな人形を贈呈しお礼を申し上げるとともに、2月に本校生徒全日制2名と定時制2名の計4名がお世話になる挨拶をおこなった。



○学内見学

東京ドーム4個分という敷地をほこる学内の施設見学をおこなった。

施設は低層2階建てに制限され、緑も多く開放的であり、ICT設備も充実しており快適な学習環境である。

○学生のサポート体制の充実

学内には前述の学習支援のチューター制度のほかにも、留学生、メンタル、進路、生活支援などの分野ごとに専門のカウンセラーやソーシャルワーカーを配置しており、支援体制が充実している。

また、学生の利用についても周知が徹底されていることと相談するオフィスが開放的で入室しての利用がやりやすい配慮がなされている。



3:00 PM 日本総領事館訪問

日本国在ハワイ総領事館を訪問し、毎年、本校生徒が面談させていただいている日本国ハワイ総領事にお礼申し上げますとともに2月に生徒たちが総領事に面談するのを楽しみにお願いした。



5:00 PM ホテル着

1月19日

6:00 AM ホテル発

8:00 AM ホノルル空港発 HA303

9:00 AM リフエ（カウアイ島）空港着

ハワイ大学カウアイカレッジ交流事業コーディネーター池田恭子氏が出迎え朝食後、埠頭にてホクレア号を見学後カウアイカレッジに向かう。

10:00 AM ナマホエ号見学

ナマホエ号はハワイ諸島で最初に建造された航海型カヌーであるホクレア号の姉妹船で、市民の手作りにより10年以上をかけて建造し昨年完成し航海をおこなった。

これまで建造された航海型カヌーの中では最も大きく、全長で8mほどあった。

○施設見学

カウアイコミュニティカレッジは学生数1400名ほどなので、カピオラニ比べれば半分以下なので、比べるとこじんまりとしているものの施設は充実している。



カウアイ島では同カレッジが島の最高学府であり、卒業してハワイ大学の3年に編入する生徒も少なくない。

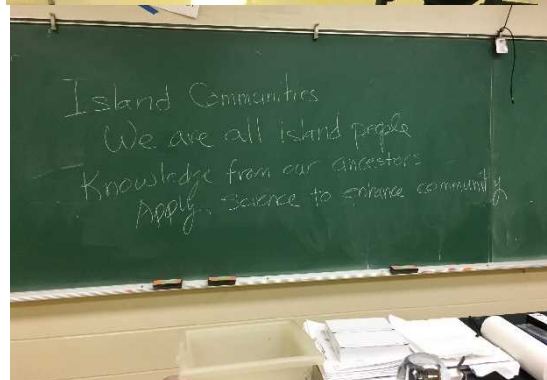
○ブライアン山本先生との懇談

生物を担当しているブライアン先生は、自然科学を通じてのハワイアンスタディを実施しており、ポリネシアから伝達されて植物と文化についてその関連性について講義や実習をおこなっている。



○デニス先生との懇談とカヌー製作の見学

デニス先生は船舶学が専門で、ナマホエ号の製作チームのリーダーで、実習艇の製作もおこなっており、製作現場でマストの立て方など工夫についてヒヤリングをおこなった。また、日本の商戦高専から毎年、短期研修を受け入れており、その内容や成果についても説明を受けた。



2:00 PM 小学校への出前授業見学

ブライアン先生のプログラムを終了した学生がチューターとして実施した小学校でのプログラミングの授業を見学した。学生が小学生にプログラミングを教えることで相互の学びが成立していた。



5:00 PM ホテル着

1月20日

9:00 AM ホテル発

10:30 AM カウアイ峡谷

カウアイ島にはハワイのグランドキャニオンといわれるような大規模な峡谷がありアースサイエンスの見学場所となっているので現地を訪れプログラムの説明を受けた。広大な自然の中で長い年月をかけ浸食の結果つくられた峡谷を実際に観察することで自然のすごさを知ることができる。



1:00PM カウアイ国立熱帯植物園

アメリカに5園ある国立植物園の本部もある施設であり、5つのゾーンに分かれている。そのうちのカヌープランツのゾーンにはポリネシアからカヌーでハワイにやってきた持ってきた植物が展示されており、ハワイの歴史や文化をすることができる。



6:00PM ホテル着

1月21日

7:00AM ホテル発

8:40AM リフエ空港発 HA124

9:15AM ホノルル空港着

12:55AM ホノルル空港発 ANA NHO185

1月22日

5:30PM (日本時間) 羽田空港着

ホテル泊

1月23日

7:30AM (日本時間) 羽田空港発 ANA1891

8:30AM (日本時間) 八丈空港着

9:00AM (日本時間) 八丈高校着

今回の訪問に応えるかたちで、ハワイ大学カウアイカレッジにおいて航海型カヌー文化の保存継承の取り組みをおこなっているデニス先生が2018年5月に来島することとなり、八丈での海洋文化保存継承について協議をおこなう予定である。

このほか、八丈町の人材育成支援の民間団体 SHIP に事前調査を委託したので報告書を添付する

成果報告3 小笠原の交流

学校名	八丈高等学校
活動名	小笠原との連携 委託調査 アウトリガー活用の海洋観光

アウトリガーカヌーレース大会視察

今日の大村海岸



スタート！



にっぽん丸も応援しています



ゴール！！

2017年7月16日

父島では扇浦海岸で第19回貞頼杯人力発見海洋レースが行われました。

小笠原の伝統文化として継承されてきた「アウトリガーカヌー」でのレースは、人力で海を進むなら何でもあり(カヌー、スイム、パドルボードなど)の「オープンレース」、波打ち際での子ども向けワクワク障害物運動会の「キッズレース」がありました。

大いに盛り上がり、過去最高の参加人数だったとか。

古くから島民の脚として利用されたアウトリガーカヌー。

アウトリガーカヌーとは主に南太平洋で用いられ、安定性を増すためにカヌーの片脇にアウトリガーと呼ばれる浮きがついている船のことです。

また、小型のエンジン付きのアウトリガーカヌーもあります。

カヌーは水面に近いので、呼吸しに上がってくるウミガメやイルカの姿を間近で見たりすることがあります！！



アウトリガーカヌー(ビジターセンター展示)

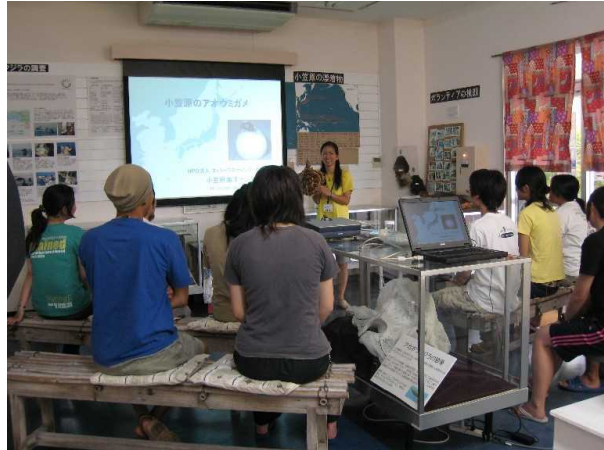
学校名	八丈高等学校
活動名	うみがめ教室 主幹教諭 東 達康

小笠原海洋センター視察

八丈島のビジターセンターとは異なり、ウミガメの保護に特化した施設である。

なかでもウミガメ教室は人気のアクティビティとなっている。

スライドを使った解説で、ウミガメの生態や歴史と現状がわかる『ウミガメレクチャー』、スタッフと館内をまわる『水槽案内』、かわいいウミガメたちへの『給餌体験』、本物のウミガメに触れ合える『甲羅磨き体験』ができます。



きっとウミガメの生態に驚いたり、直接触れ合うことで、帰るころにはウミガメが大好きになっていると思います。

子ガメが泳ぐ様子やその生態も身近で知ることができ教育効果も高いと思われる。



利用方法としては、随時に訪問することも可能だが予約がおすすめとなっている。とくに小笠原丸入港直後などは混み合うこともあるとのこと。

利用のポイント

開催日時：おがさわら丸入出港日（※

調査シーズン以外は入港中。詳細は予約フォームをご確認ください。）

【父島入港日】 13：30～（午後1回）

【父島出港日】 8：30～（午前1回）

【父島着発便】 8：30～ / 13：30～（午前・午後、各1回）

参加費：大人（中学生以上）3,240円（税込） / 子供（小学生）2,160円（税込）

※船の欠航以外の理由でのキャンセルは、キャンセル料をいただきます。

対 象：乗船券購入と宿泊先をご予約の上、お申し込みください。

※小学生のみの参加はお受けいたしておりません。

※未就学児（幼児）は無料となります。

備 考：現地集合・解散となりますので、交通手段につきましては各自でお願いします。

学校名	八丈高等学校
活動名	小笠原高校との交流 主幹教諭 東 達康

小笠原高校と八丈高校はそれぞれ東京の南1000kmと300kmに位置するので、小笠原高校にとって隣の高校は本校となる。しかしながら小笠原高校から八丈高校に来るには、年一回の小笠原丸の八丈寄港便を除けば、一度、24時間かけて東京の竹芝まで乗船し、下船後、その日の夜に八丈行きの橘丸に乗船することとなり、八丈までは11時間を要し到着は翌朝となる。結果、乗船時間で35時間、待ち時間をあわせると46時間の移動時間となる。

したがって、小笠原高校から一番近い本校を訪問することはこれまでになく2017年12月に、初めての来校となった。



交流の経緯をたどると

- 2016年11月 パイオニアスクール地域展開部門応募を検討
- 2017年2月 地域展開部門に採択され活動を計画
- 2017年6月 八丈高校教員が八丈町親善訪問団に同行しておがさわら丸により小笠原を訪問し交流の計画について協議
- 2017年7月 大島で開催された島しょ高校生サミットにおいて生徒同士が交流し相互訪問について確認。
- 2017年12月 小笠原高校から生徒2名、教員2名が本校を訪問し交流

交流の様子



活動報告 4 八丈の将来を海洋教育の視点から考える活動と発信

学校名	八丈高等学校
活動名	島や海の食材を生かしたグルメコンテストの開催 教諭 三輪

平成 29 年 12 月 24 日に「ちびっこシェフの島じまんグルメ大会」が開催されました。

この大会は、八高生が企画と運営をおこない産学官民連携で応援したものです。産は協賛企業（長田商店、八丈島乳業、やたけ製菓、椿荘）、学は八丈高校、官は八丈町、民は事業費助成財団となり、八高も町も費用負担をしていません。

内容は、保育園児から中学生までの参加者が島や海の食材を使用したレシピを考案し、調理するというものです。書類審査を通過後、実食審査をおこない最優秀賞と優秀賞を選びました。当日は開会式後、調理、審査、エキシビション、表彰式がおこなわれました。

チーム名	メンバー	メニュー
手作りクラブ	三原小 4 人	八丈島型あしたばケーキ
KINME GALS	三根小 4 人	キンメバーガー
チーム木村	大小 4 人	玉石パフェ
磯野家の食卓	若草保 2 人	あしたばスイートポテト
うずしお	富士中 4 人	島とうペペロンチーノ
MAT クッキング	大小 3 人	八丈コロッケ



各グループが真剣に調理や盛り付けをしている様子です。

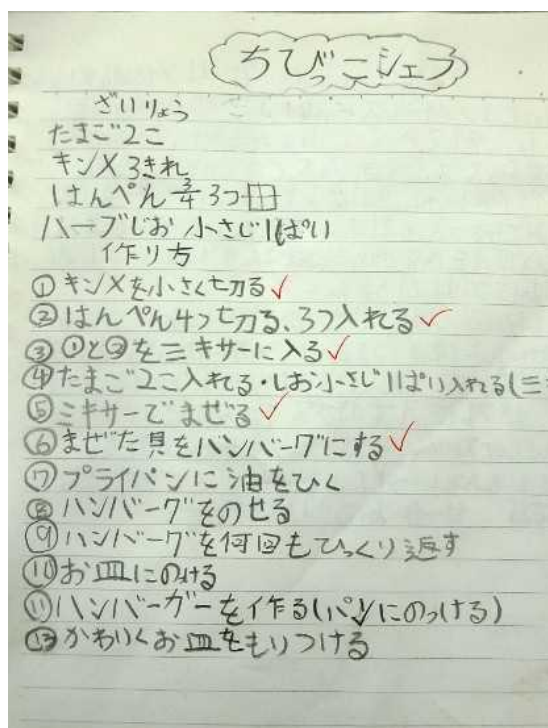
最終審査に選ばれたお料理とほかのグループの作品をご紹介します。

【最優秀賞】キンメバーガー (KINME GALS) 三根小4人

八丈島産金目鯛を黒山海のハーブ塩で調味。皮も混ぜた薄ピンクのハンバーグは、はんぺんと合わせてふわとした食感に仕上げ、明日葉の粗みじんを混ぜたタルタルと共に「やたけ」のバンズで挟んであります。付け合せは明日葉粉末をまぶしたカンモ (サツマイモ) のフライドポテトと八丈島産クレソン、八丈レモンです。

実食審査の際には、各チームが出てお料理の説明と工夫した点のアピールをしました。

手書きのレシピをいただくことができたので掲載します。かわいいレシピですね。わかりやすくまとめられています。作ったのはこちらの小学生グループです



【優秀賞】八丈コロッケ (MATクッキング) 大小3人



作ったのはこちらの小学生グループです。

八丈島産里芋のもちもちコロッケ。アクセントにくさやを使ってあります。

子どもでも調理できるよう揚げずに焼き、サクサクした食感を出しました。
くさやは骨をきれいに取り除いて入れたそうです。

島とうペペロンチーノ (うずしお) 富士中 4人



作ったのは中学生グループでした。代表が出てアピールしました。

八丈島で栽培されているうみかぜ椎茸と特産品の島唐辛子を使ったペペロンチーノです。
アンチョビ代わりにくさやを使い、椎茸を型抜きトッピングしています。

八丈島型あしたばケーキ (手作りクラブ) 三根小 4名



学校で先生と一緒に練習したそうです。

明日葉粉末を使い、表面は茶色で中は鮮やかなグリーンのケーキ。
バナナで花を表現したそうです。

あしたばスイートポテト (磯野家の食卓) 若草保 2人ご両親がアシストしました。



今回のコンテスト用に八丈島産の蜂蜜があれば使いたいと、探したものの残念ながら現在は蜂蜜の在庫がなくて八丈島産蜂蜜を使うことができませんでした。

玉石垣パフェ (チーム木村) 大小4人



作ったのは小学生グループです。

明日葉粉末と八丈島産豆腐で作った白玉を玉石垣に見立てたパフェです。
パッションゼリー、パッションフルーツ果肉 (冷凍しておいたものだそうです)、
八丈島ジャージーアイス、少しの砂糖で煮たカンモ (サツマイモ)、生クリームを使い、
食べるうちに味に変化する贅沢なパフェです。アピールしたい気持ちが伝わってくる説明
でした。

審査・エキシビジョン

以上、6グループのお料理から審査員の方々の
実食審査で最優秀賞・優秀賞が決定しました。

力作揃いの難しい審査をされた審査員の方々です。右側から八丈町長、八丈高校家政科
3年生、八丈高校定時制副校長です。

審査が難航して時間がかかりましたが、この間に、エキシビジョンとして行われた八丈
高校家政科の生徒により、島のサツマイモご飯 (中之郷産米使用)、蓮根餃子、カンモ&里



芋の汁物、八丈レモンパイ、等の島食材料理が提供されました。



審査が

終わり、審査員の方々から総評が述べられ、その後に表彰がありました。

最優秀賞、優秀賞の方々の表彰です。協賛企業から豪華賞品もいただきました。



最後に、このコンテストの実行委員長（企画者）からご挨拶がありました。

※八丈高校ホームページに、コンテストの意図が書かれたパンフ画像があります。

ぜひこちらをご一読ください。素晴らしい内容です。

高校生がここまで考えられることに感動しました。

また、エキシビジョン含むイベント内容も進行も素晴らしいものでした。

コンテスト終了後に、実行委員長にコンテストに至る経緯をお聞きしました。

フードコーディネーターを目指す企画者が、島内で食イベントをやりたいと思い、先生に相談して実現できた企画だそうです。

生徒も素晴らしいけど、これを実現させてくださった先生方に感謝します。

自らの意思を実現させるために〔先生に相談する〕という一歩を踏み出せた生徒とそれを受け入れて実現にご尽力くださった先生との信頼関係と行動力が生み出した八丈島の新しい食イベントが今後も引き継がれて開催されることをわたしも願います。

企画者の意図通り、子ども達が八丈島の海山の食材を通して食と地域を学び、参加者全員が温かい気持ちになれるとても良いイベントでした。



学校名	八丈高等学校
活動名	にっぽん丸寄港のおもてなし 海塩マドレーヌ販売 主任教諭 金子将之

平成29年5月23日（水）に日本丸が「徳島発着 初夏の八丈島クルーズ 3日間のツアー」として徳島県から東京都の八丈島に來られました。

同日10時に寄港し八丈島の観光（温泉・郷土料理）を行いました。

八丈町役場の方から、東京都立八丈高等学校で製造したものを観光客の皆様にご覧頂くよい機会と捉え、園芸科で企画・製造・販売に取り組みました。企画会議では、「原材料は、八丈島らしいものを使用する。」「パッケージも本校オリジナルのものを作成する。」などを決めて企画会議は終了しました。後日試作を行い手軽に食べることができる「焼き菓子のマドレーヌ」を製造することになりました。八丈産の「天然塩、八丈フルーツレモン、八丈島産鶏卵、八丈島産明日葉粉」を使用して「八丈フルーツレモンのプレーンマドレーヌ」「明日葉を贅沢に使用したマドレーヌ」の製造に取り組みました。隠し味には、八丈島の自然の恵がつまった天然塩を使用しました。

八丈島産の使用した原材料は、施設見学や生産者から直接お話を伺い、生産時の苦勞や、こだわりなどを聞き製造意欲も沸きました。

八丈高等学校のプロジェクトチームでラベル作成は、美術の先生が行い商品の顔となる素晴らしいラベルが出来上がりました。園芸科でラベル貼りから製造・袋詰めまで1つ1つ丁寧に製造に取り組みました。

当日は、お客様からのご好評を頂き完売いたしました。直接お客様の顔を見ながら製造者が販売まで行う事ができました。

にっぽん丸の八丈島寄港

にっぽん丸 (22472 トン) は、日本の大手海運会社商船三井の外航客船部門担当会社商船三井客船 (通称: MOPAS) が運航する、外航クルーズ客船

毎年、日本各地から 2 泊 3 日程度の八丈島を目的地とするクルーズが企画されています。

今回は、四国徳島からのクルーズで、初めての八丈島を楽しんだ方も大勢いらっしゃいました。

八丈の栈橋には 2 万トンを超えるにっぽん丸は接岸できないので、神港 (かみなと) 漁港から通船で上陸するかたちなので、海上での大型客船から通船への乗り換えなど普段はめったにできないことなので、ちょっとした冒険気分で楽しまれていました。

八丈への大型客船の寄港は年間 10 回程度あるので、そのような機会をいかして交流を進めていきたい。



学校名	八丈高等学校
活動名	アイデアソン参加と島民図鑑による発信 校長 千葉勝吾

東京都オープンデータアイデアソンキャラバンに参加

八丈町・明日の「しまたび」を創ろう！！ ～島民と観光客とで考える観光振興～
海洋観光に興味ある生徒 3 名が学校を代表して参加
キャラバンの内容レポート

◇ 知識のインプット

最初は八丈町観光協会理事であり、アロマとヨガのセラピールーム「癒香」を経営する玉井氏とコメンテーター庄司氏による、八丈島のことを知るための時間で、島の概要を知らながら観光ポイントを探ります。

八丈島は雨の多い島ですが、決して南国気候ではなく、本土よりは少し暖かい過ごしやすい島です。島には天然記念物「アカコッコ」が生息しており、トカラ列島と伊豆諸島のみに住み、バードウォッチャーには見逃せない鳥であるという解説もありました。

インプットの最後はダイビングショップを経営する日比野氏と庄司氏による町の海洋観光業についてです。かつてダイビングブームで来島者が増えた時期もありましたが、その時期に育った世代の下が不在であり、観光・サービス業、飲食店の従事者が減ると、サービス業を顧客にする漁業や農業へも影響します。日本国内で観光産業が伸びている状況にあって、来島者数が減少傾向にある八丈町の現状をどうしていけばいいのかが課題です。

◇ 情報収集・課題設定

グループ内で改めて自己紹介を行い、ここからゴールに向けて話し合い、課題を見つける作業が進められます。庄司氏からは、午前中の作業として目標設定の仕方について簡単な説明が行われました。

まず課題のイメージを明確に持つために、2020年までに「誰の」「どんな課題を」「どのくらい」「どうするのか」を意識するという。そのためには「課題を示すエピソードや具体例」「課題を示すデータ」「課題の原因」「課題の原因の原因」について意識するというアドバイスがありました。



◇ ディスカッション

昼食も終え、参加者の皆さんもリラックスした雰囲気の中で途中経過の発表が行われます。各グループで意見が交わされた結果、農業、気候、若者、島の滞在日数、様々な視点での課題設定が行われました。

◇ アイデアまとめ

ゴールのプレゼンテーションに向けて、アイデアのディスカッションが進みます。庄司氏からは、解決アイデアを考える時に IT サービスやアプリなどを使用するアイデアでまとめること、「課題」「課題の説明」「アイデア」「アイデアの有効性・実現に必要なこと」「使用するデータ」の項目でプレゼンテーションを作ることが説明され、感覚的なことでなく「どのように、何して、どうする」ということを丁寧に議論してまとめていくことが付け加えられました。

◇ 発表

いよいよ1日をかけて導き出したアイデアの発表です。

発表時間の管理もグループ内で協力して行います。



都立八丈高校の生徒が代表で発表するグループもあり、会場内は盛り上がりを見せました。発表が終わった後は、参加者全員による投票で優秀グループを選びます。投票の結果、グループ3の「八丈島島民図鑑 島の暮らしを伝えるウェブサイト」が選出されました。

このグループのアイデアは、サマーアクティビティ目的以外の観光客が少ないことを解決するため、観光資源として島の人々の暮らしにフィーチャーし、島民やその人たちのコトバをテーマにしたウェブサイトを作成して島の魅力を発信していこうというものです。

島の人だからこそ知っている情報で、特に来島者として少ない20～30代の若者に関心をもってもらおうという狙いがあります。

発表の際には、発表者の高校生からガイドブックに載っていない「インスタ映えスポット」の写真も紹介されました。



現在八丈島民図鑑発信中

八丈島民図鑑とは『Instagram』を使って八丈島民の日常を通して島の魅力を発信していくプロジェクトです。

島民だから知ってる穴場や新名所などリアルタイムで更新される情報で観光ガイドブックにはない新しい島旅を楽しんでください。

図鑑に登録していない島民や観光の方もお気軽に八丈島の写真に#八丈島民図鑑 をつけて発信してみてくださいね^^

【八丈島民図鑑】

八丈島民発信★ リアルタイム観光ガイド

八丈島のことは

島民がいちばん知ってる！

<https://hachi-zukan.jimdo.com/>

